

# あらかわ俳句マップ

区内で俳句に親しめる場所を紹介。文化推進課 問合せ 区内線2522

### 投句箱

各図書館・図書サービスステーション、ゆいの森あらかわ、区役所3階文化交流推進課、町屋文化センターに、俳句ポストを設置しています。年に4回開催する、あらかわ俳壇(8面参照)や、シダレザクラ祭り投句会等への投句の際に、ぜひご利用ください。

### ラッピング都電

荒川区を横断する都電荒川線の車体に、「俳句のまちあらかわ」をPRするデザインをラッピングし、運行しています。9月以降は、車内に区の投句事業の入選作品を展示します。

### 3 金子兜太句碑

荒川千住 芭蕉ま徒に 花の春

現代俳句協会名誉会長・金子兜太氏が、平成27年の荒川区長との対談の場で、「俳句のまちあらかわ」のシンボルとして、平成29年3月に建立しました。

場所 荒川ふるさと文化館 (南千住6-63-1)  
建立 平成29年(2017年)

### 1 松尾芭蕉像

平成27年3月、「奥の細道千住あらかわサミット」の開催を記念し、「矢立初めの地あらかわ」のシンボルとして、南千住西口駅前建立しました。ブロンズ製の松尾芭蕉像は、荒川区指定無形文化財(鍍金・菓子満氏の企画・協力で、彫刻家・平野千里氏(荒川区顧問)が制作しました。

### 4 現代俳句センター (ゆいの森あらかわ3階)

現代俳句協会からの寄贈本を始め、外国の俳句資料や、80を超える俳誌をそろえています。

### 2 松尾芭蕉句碑

行はるや 鳥啼魚の 目八なみた

「おくのほそ道」の一節と芭蕉像が刻まれています。この句は、旅の初めに詠んだ矢立初めの句です。過ぎ行く春、見送る人々との別れを惜しむ心を表した句で、江戸時代、千住に集う文人たちにより建立されました。

場所 素盞雄神社 (南千住6-60-1)  
建立 文政3年(1820年)



### 8 西山宗因句碑

江戸をもつて 鑑とす也 花に樽

談林派二世井原西鶴の百回忌にあたり建てられました。宗因は談林派初世で、建立以来養福寺は、談林派の記念句会の舞台となりました。その際建てられた談林派の句碑が、ほかにも多た残っています。

場所 養福寺 (西日暮里3-3-8)  
建立 寛政4年(1792年)

### 7 小林一茶句碑

陽炎や 道灌どのの 物見塚

本行寺の住職である一茶という俳号をもつ日恒上人が一茶を大変いきにしており、一茶はたびたび本行寺を訪れていました。本行寺には、江戸城を築城したこと等知られる戦国武将・太田道灌が、高台という立地を利用して斥候台を築いたという伝承のある、物見塚があります。

場所 本行寺 (西日暮里3-1-3)  
建立 昭和61年(1986年)

### 6 種田山頭火句碑

ほつと 月がある 東京に来てゐる

山頭火のよき理解者である俳人・大山澄太氏が、小林一茶の句碑を埋ごうした際に、山頭火の句碑建立を提案しました。山頭火が月を詠んだこの句は、「東京であれば、月見寺とは本行寺に違いない」と解釈されています。

場所 本行寺 (西日暮里3-1-3)  
建立 昭和61年(1986年)

### 5 正岡子規句碑

芋坂も 団子も月の ゆかりかな

芋坂は、台東区谷中から東日暮里に抜ける坂の名称です。東日暮里側に羽二重団子本店があり、台東区根岸に住んでいた子規が好んだ、羽二重団子を詠んだ句です。十五夜の月を芋名月ということから、名月と芋坂、そして丸い団子をかけて「月のゆかり」と詠んでいます。

場所 羽二重団子本店 (東日暮里5-54-3)  
建立 不詳

### 南千住・日暮里図書館俳句特設コーナー

南千住・日暮里地域にゆかりのある俳人の特設コーナーを設置しています。

- ▼松尾芭蕉奥の細道関連コーナー
- 会場・問合せ 南千住図書館 ☎(3807)9221
- ▼正岡子規コーナー
- 会場・問合せ 日暮里図書館 ☎(3803)1645

### 松山市観光 俳句ポスト

正岡子規や夏目漱石の作中に登場する日暮里の羽二重団子に、子規や漱石ゆかりの地である、愛媛県松山市の観光俳句ポストを設置しています。ポストに投句された俳句は、定期的に松山市に送られ、選句されています。

※本店の改装工事に伴い、日暮里駅前店に移設し設置しています。

※ここに紹介した俳句は、碑文どおりに表記しています